

うえまつ いちこ  
上松 市子 さん

# ひと

## 歌って笑ってまちを元気に



「人の笑顔を見ることが私の楽しみです」と、上松さん

### 音

楽をこよなく愛する人が数多く住まうまち。昨年開かれた市民音楽祭では、街中がすてきなメロディーに包まれたことは記憶に新しいところでしょう。そのような蕨で、歌と中高年世代の人生の悲哀をユーモラスに語る漫談という、異色のハーモニーで地域に笑顔と活気を広げているのが上松市子さん（69歳・中央7丁目）です。レコード会社からCDをリリースしたことがある一方、福祉施設や町会などでいつまでもいきいきと暮らすことをテーマに精力的に公演を行っています。

かつては、嫁姑問題で胃潰瘍や円形脱毛症になるなど苦勞をしてきた上松さん。そんなときに心の支えとなっていたのが子どものときから好きだった歌でした。美空ひばりのものまねがおほこだった上松さんは、さいたま市の中学校で家庭科を教える傍ら歌のレッスンを続け、平成8年にカラオケの全国一を争う「第12回日本大衆音楽祭」で歌唱賞を受賞しました。すると歌のうまさは瞬く間に学校中の評判に。歌を通して子どもたちとより親しくなり、悩み相談を持ちかけられるようになりました。そんなときに自分の苦勞を笑い飛ばして話すと、深刻そうだった顔がみるみるうちに元気に。これが歌謡漫談家として第二の人生を歩むきっかけとなったのです。

十数年続けている上松さんの公演は「気持ち若返る」と口コミで市内外に広まり、既に来年まで予定が入っています。それでも、今の自分があるのは支えてくれる皆さんのおかげという思いから、「恩返しなので、まず依頼は断りませんね」と胸を張ります。周囲が体調を気遣って声をかけると、「体はもうコキコキなのよ」と、即座に冗談を交えてほほえむ上松さん。これからも地域の心を潤す一服の清涼剤であり続けることでしょう。

### 今月の河鍋暁斎記念美術館

## 天才絵師の作品 蕨にあり

— No.21 —



暁斎筆「雪中遊狗図」明治14年 紙本 色摺

今月の企画展は、1月に引き続き、今年の干支の「戌」にちなんで、暁斎や娘の暁翠が描いた犬の絵などを展示しています。現在展示中の本図は、雪の中で遊ぶ二匹の子犬を暁斎が描いた、色摺りの版画です。この作品は明治14年（1881）に出版された絵本『暁斎楽画』にも掲載

されていますが、大変人気の絵柄だったようで、当館に同じ構図で描かれた団扇用の下絵が残っています。雪も構わず毬と戯れる子犬たちの愛らしい姿は、今も見る人の目を惹きつけます。



現在の茨城県古河市で生まれる。浮世絵や狩野派を学び、江戸・東京の庶民から人気を博す。明治9年、万国博覧会に肉筆画を出品。14年、内国勲業博覧会で日本画の最高賞受賞。娘の暁翠も日本画家。



かわなべ きょうさい  
河鍋 暁斎  
天保2年(1831)  
～明治22年(1889)

河鍋暁斎記念美術館 2月25日(日)まで  
「戌年の心新たに 神様・ほとけ様」展  
同時開催「英国の子供たちの見た暁斎」展

開館 = 午前10時～午後4時  
休館 = 木曜日 毎月26日～末日  
ところ = 南町4-36-4  
入館料 = 一般600円 中学生～大学生500円  
小学生以下300円  
(20人以上の団体は要予約)  
詳細 = 同館 ☎441-9780



展示会の詳しい内容は美術館のホームページをご覧ください